

平成 22 年 10 月 吉日

報道関係資料

一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会

音と映像と通信のプロフェッショナル展

Inter BEE 2010

■ 世界の技術潮流をリードする Inter BEE ■

社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA/会長: 下村節宏/三菱電機株式会社 取締役会長) は、日本放送協会 (NHK) と社団法人 日本民間放送連盟 (NAB-J) の後援により、2010 年 11 月 17 日 (水) から 19 日 (金) までの 3 日間、幕張メッセ (千葉県美浜区) にて、音と映像と通信に関する放送機器の展示会 “Inter BEE 2010” を開催します。

我国の放送業界、電子機器業界は、現在の基幹メディアになっている「ハイビジョン (HDTV)」など、これまで最先端の放送技術を生み出し、多種多彩な高品質のコンテンツを提供してきました。Inter BEE は 1965 年に始まり今年 46 回を迎え、米国の NAB、欧州の IBC と共に放送技術の推進役として、大きな実績を上げてきました。デジタル時代が進展する中、日本が開発し育て上げてきた HDTV は、今や国内では基幹放送メディアとなり、世界的にも大きな潮流になっています。

昨年の Inter BEE 2009 は、国内外からの出展者数が過去最高記録を達成し盛況裡に開催されました。世界的に停滞しつつあった経済状況も底を打ち好転を期待される中、“Inter BEE 2010” は次の新たなデジタル時代に向け、これまで以上に放送・映像・音響業界の推進役を担うべく、今回も有益な各種イベントを開催し、多彩な最新技術の展示を行います。

■ 放送の進化と変化を体感 ■

デジタルテクノロジーの目覚ましい進歩、発展は、放送と通信の連携と融合やユビキタス社会への対応などに象徴されるように、放送を取り巻く様々なメディアや電子産業等の分野に大きな変革をもたらし、多くの可能性を広げ、新たなビジネスチャンスを生み出しています。

大きな変貌を遂げつつある世界的な技術潮流の中、我国はデジタル化完全移行まであと1年を切り、国、放送業界、電子機器メーカー、制作プロダクションなどが総力を上げて、その“変化”とそれがもたらす“可能性”に向け着々と準備を進めています。

今回、46回目を迎える Inter BEE 2010 は従来からの放送分野に加え、通信、IT、音響、ライティングなど広範な技術分野を俯瞰できる総合的な展示を公開します。急速に発展を遂げつつある3D映像はもちろんのこと、HDTVを核とする最先端の放送・映像・音響機器、IT・通信等を活用した新たなワークフロー、様々な変革に対応するアプリケーションやソリューションなどが一堂に展開され、放送の進化と変革を体感することができます。

■ 国内・世界の技術動向を読む ■

Inter BEE では機器展示にあわせ毎回様々な企画・イベントを開催しています。

毎回、注目を集める“Inter BEE Content Forum”は、国内外からの放送・映像・音響各分野で活躍する第一人者を講師に迎え、業界最前線の状況や動向を語り、議論する「映像シンポジウム：コンテンツのクロスメディア展開」と「音響シンポジウム：ラウドネス音声基準規格」を開催します。また今年には新企画として、世界的に大きなトレンドになっている「立体3D」特別セッションも設けます。これらの Forum は、国内外からの多彩な人材、専門家と親しく交流できる絶好の機会となるでしょう。

好評を博し今年3回目となる「チュートリアル・セッション」は、これからの時代を担う業界若手やこれらの分野に関心を持っている学生などを対象に、映像・音響分野の第一線で活躍する講師陣が、現場で役立つ技術者のため、機器・システムの活用法、コンテンツ制作手法などの基礎的なことを伝授します。若手人材の育成とともに今後の業界発展に貢献してまいります。

Inter BEE 発足以来の恒例行事になっている「民放技術報告会」は、全国の民放局の第一線の専門家が、変革を遂げつつある放送局の現状や課題を語り、各局が開発した様々な最新技術を一般に公開する唯一の場です。これからの放送の行方、方向を知る貴重な機会になることでしょう。

昨年に続き開設される「IPTV、Mobile TV、クロスメディアゾーン」では、放送・通信における最新のIPTVサービスが一堂に会し、デジタル完全移行後のビジネスチャンスを一望できる場を作ります。また、近年大きな展開をしているデジタルサイネージ、世界的に大きく映像市場を拡張しているデジタルシネマ、今年「3D元年」とも言われる3D分野の最新技術動向を提示し、体験の場を提供します。従来以上に広がりつつある新しいメディアの可能性と技術の進化を体感していただきます。また、全映協フォーラムでは、全国の制作会社や学生が制作した多様なコンテンツを公開し、さらに地域のコンテンツビジネスのトライアルも紹介します。

■ Websiteによる出展者支援、来場者支援、メディア対応 ■

Inter BEE は出展企業、ユーザや来場者を支援する各種サービスを提供します。Inter BEE の公式 Website は、“Inter BEE online”として展示会情報のみならず放送、映像、音響関連分野の業界情報など、一年を通じて様々な情報を配信しています。この Website にて、出展企業は自社情報を自由に書き込み、ユーザや来場者がそれらの情報を利用し、イベント予定を確認するなど、会場を見学しやすいように情報を提供します。

“Inter BEE online”の中で掲載する「Inter BEE Online Magazine」、映像コンテンツを配信する「Inter BEE TV」では、業界専門家が各社の出展情報やフォーラムなどのイベントについてレポートします。またメディア関係者が情報入手、発信しやすいようにプレスサービスも充実しています。

■ Inter BEE は最高、最良、絶好のビジネスチャンス会場 ■

世界の放送に大きく貢献する日本、世界の技術が、今回も Inter BEE に結集します。国内外の最先端、最新の技術に触れることができ、多くの専門家やクリエイターに接することができ、そしてビジネスチャンスを生む場となります。多くの方々のご来場をお待ちしております。

以 上

◆資料記事「Inter BEE の歩み」◆

放送機器展（当時名称）は、1965年（昭和40年）秋、社団法人日本民間放送連盟（民放連）からの呼びかけで第2回民放技術報告会の併設展として、東京・虎ノ門の発明会館において出展者12社でスタートしました。

第2回（1966年）の開催にあたり、民放連と電子機械工業会（現：社団法人電子情報技術産業協／JEITA）との共催となり、第3回（1967年）より、当時、新しくオープンした東京・北の丸の科学技術館に会場を移し、第4回（1968年）には主催を電子機械工業会とし、民放連は協賛団体として開催するようになりました。

その後、第10回（1974年）から日本放送協会（NHK）も協賛団体となり、放送機器ユーザを対象とした専門展示会として注目されるようになり、国内展としての地位を確立してまいりました。

第11回（1975年）に特別展として併設した「これからの放送 — テレビ多重放送」の公開実験が注目を集めると、13回目（1977年）から出展者数・来場者数共に劇的な伸びを示しだし、14回目（1978年）からは海外からの出展も増え、同時に海外来場者も増加へと向かいました。

第18回（1982年）からは会場を東京・平和島の東京流通センターに移し、科学技術館の2.5倍に展示スペースを拡張いたしました。また、会場移設を契機に、海外からの参加者増を受けて名称を現在の「国際放送機器展（Inter BEE）」といたしました。この頃に展示部門をプロオーディオ部門、放送関連機材部門、カメラ・VTR・スタジオ装置部門、の3部門構成として専門性を明確化しました。これによって、来場対象者は、放送局からソフト制作会社、CATV関係、公共施設、放送設備導入会社など、広範な分野にひろがりを見せるようになりました。

第21回（1985年）からは会場を東京・池袋サンシャインシティのコンベンションセンターTokyoへ移し、展示スペースを13,000平方メートルに拡大いたしました。また、出展者数は250社を超え、国際展示会として国内外に認知されるようになりました。この時期から放送機材カタログ集の発行、国際シンポジウムなどのイベント開催、来場者の完全登録制などの様々な新しい施策を実施してまいりました。

第26回（1990年）からは現在の幕張メッセに会場を移し、展示スペースは20,000平方メートルとなり、以降、約5年毎に展示ホールを1つずつ増床し、現在の47,000

平方メートルまで規模を拡大してまいりました。来場者数は、第 34 回（1998 年）より 3 万人を超え、放送機器分野の展示会としては、米国の NAB、欧州の IBC に並ぶ展示会に位置づけられるようになりました。

今日、日本のみならず世界中で放送のデジタル化の波が急速に広がっています。最先端の技術力で世界をリードする「Inter BEE（国際放送機器展）」は、音と映像と通信のプロフェッショナル展として、国内外のトップレベルの放送機器、映像機器、音響機器、周辺アプリケーションやソリューションが一堂に会し、放送関係者のみならず、それを取り巻く幅広いユーザに大きな関心が持たれております。

◆Inter BEE 2010 開催概要◆

- 名 称：Inter BEE 2010（International Broadcast Equipment Exhibition 2010）
（第 46 回） 2010 年国際放送機器展
- 会 期：2010 年 11 月 17 日（水）～11 月 19 日（金）〔3 日間〕
- 開場時間：11 月 17 日（水）・18 日（木） 午前 10 時～午後 5 時 30 分
11 月 19 日（金） 午前 10 時～午後 5 時
- 会 場：幕張メッセ（展示ホール 4～8） 〒261-0023 千葉県美浜区中瀬 2-1
- 入 場：無料（登録制）
- 主 催：社団法人 電子情報技術産業協会（JEITA）
- 後 援：日本放送協会（NHK）、社団法人 日本民間放送連盟（NAB-J）

《前回ご参考》

Inter BEE 2009

会 期：2007 年 11 月 18 日（水）～11 月 20 日（金）
会 場：幕張メッセ
出展規模：816 社（うち海外：30 カ国・地域から 466 社）／1,391 小間
来場者数：31,694 名

◆
本件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

運営事務局：一般社団法人 日本エレクトロニクショー協会 担当：石崎
TEL：(03)6212-5231 FAX：(03)6212-5225 E-mail：contact@inter-bee.com